

第2課、「空前絶後の答え」(ヨシ10:10-14)

12 主がアモリ人をイスラエルの子らに渡されたその日、ヨシュアは主に語り、イスラエルの見ている前で言った。「太陽よ、ギブオンの上で動くな。月よ、アヤロンの谷で。」

13 民がその敵に復讐するまで、太陽は動かず、月はとどまった。これは『ヤシャルの書』に確かに記されている。太陽は天の中間にとどまって、まる一日ほど、急いで沈むことはなかった。

14 主が人の声を聞き入れられたこのような日は、前にも後にもなかった。主がイスラエルのために戦われたからである。

今日の本文のイスラエルとアモリ人連合軍との戦争で太陽と月が止まる奇跡が起こります。それを指してよく「空前絶後の答え」と言います。しかし、14節を見れば、前にもなく、後にもなかったことは、主が人の声を聞き入れられたことを指すことであり、太陽と月がとどまったことを指しているのではないことがわかります。

空前絶後の事とは、一回だけあることで、同じことが二度と繰り返されて起こらないことを言います。それにもかかわらず、多くの人々が私にも太陽と月がとどまる奇跡が起こることを切に願っているのです。

「ブルース・オールマイティ」(Bruce Almighty)という映画を見ると、神の能力を得た主人公のブルースは、これまで自分がしてやりたいことすべてを成し遂げるのですが、時々休むことなく聞こえてくる人々の祈りの声に大変だったので、人々のすべての祈りを一つに集めて「yes」ボタンを押すようになります。その後、世界は無秩序による暴動が起こります。

「主が人の声を聞き入れられたこのような日は、前にも後にもなかった。」(14節a)

旧約の神は常に外にいる神でした。族长時代には人や天使として現れて意志を知らせたり働かれたりして、モーセ時代以降には指導者を選んで語られ、王政時代には預言者たちを通して意志を示されました。しかし今はどうですか？イエス・キリストが十字架を通して神と人の間を和解させた後(Ⅱコリ5:18-19)、正確には五旬節の聖霊降臨の後には、すべての神の民の中にもとおられます。そして、ご自分のみこころのままに、私たちのうちに事を行わせておられます(ピリ2:13)。依然として神様ご自身のために戦っておられるのです。

「主がイスラエルのために戦われたからである。」(14節b)

伝道者パウロの誇りは、日々死ぬことでした(Ⅰコリ15:31)。和解の務めを受けて、この時代の伝道者として生きていく私たちも、今、私が救われた神の子どもとして、今日という一日を生きている、それが前にもなく後にもない空前絶後の答えを受けていることであることを知らなければなりません。太陽と月がとどまる奇跡よりもさらに大きな奇跡は、「私のような罪人がどのように救われたのか」ということです。